

道草館だより

道草館部会

秋も深まり、読書の季節になりました。今年も、道草館に新しい本が入りました。10月3日、道草館委員、ボランティア、図書委員の皆さんで入れ替えの作業を行いました。また、10月13日には、今年度最後の学びのもり草刈り大会が行われ、大勢の保護者の方にご参加いただきました。終了後は、学園ホールで懇親会が行われ、中学・高校の保護者の方々が情報交換をし、和気あいあいと話が弾みました。



道草館の本は、保護者の方も借りることができます。また、生徒たちがどんな本に興味があるか、クラスの棚をのぞいてみてはいかがでしょうか？今回は、生徒や先生、保護者の方のお勧めの本を少しですが紹介したいと思います。



チョコレート・アンダーグラウンド

アレックス・シアラ著／金原瑞人訳

受け持ちクラスの高校生が附高祭で脚本化を手掛けたのを機に再読。原題は Bootleg (密売)。国民すべての健康のためにと政権与党「健全健康党」がチョコレートを禁止するところから物語は始まります。子どもたちの代表、古本屋の店主ジョン・ブレイズが「みなさん通りに出て下さい！」と民衆に呼びかけるところで、我がクラスの舞台は持ち時間切れにより終了。作品中、最も胸を熱くする台詞での幕切れは、実に粋な演出となり、役者の声の残響は今も耳の底に残っています。

みなが通りに出ることと、チョコレートを愛する自由の奪還とが、どうつながるのか。ぜひ本書を読んで確認してみてください。(高校教諭 M先生)

なお、道草館に納入された本については、学校ホームページに掲載される予定です。大阪府立生野聴覚支援学校図書贈呈式の様子など、道草館の活動の他、日頃の様子についても掲載されていますのでご覧ください。

いつか眠りにつく日 いぬじゅん



皆さん、死後は存在すると思いますか？

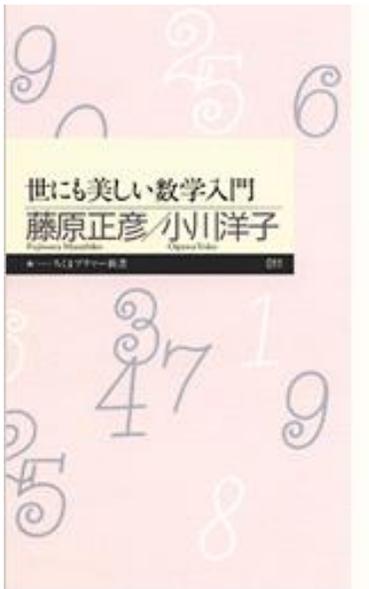
もしも存在するならどんなものだと思いますか？

この物語はある一人の少女の死後の話。

少女は死んでしまったのにも関わらず目を覚ますと病院にいた。そして、死後の案内人と名乗る「クロ」と出会い、自分のおばあちゃん、ずっと好きだった人、喧嘩して仲直りしたい親友。そんな様々人たちと死後に向き合い、天国への道のりをたどるお話。

是非読んでみてください。

(中3 Eさん)



世にも美しい数学入門 藤原正彦／小川洋子

明治大学の斎藤孝先生が「芋づる式読書」を勧めています。一冊の本から、いろんな世界が広がる、そんな本に出会えた時は、この上ない喜びです。

藤原正彦に興味を持ったなら、「遥かなるケンブリッジ」

小川洋子に興味を持ったなら「博士の愛した数式」

藤原正彦の母 藤原てい「流れる星は生きている」

そして、数学好きの男子には「フェルマーの最終定理」

まだまだ、芋づるは続きます。

ノーベル賞に数学賞がない理由とは？数学者と純文学作家が対談の中で、おもしろおかしく、数学の美しさについて語り合っています。(保護者 1)

★過去の話題作が文庫になってサイズダウン！手に取りやすくなりました。

「天才」石原慎太郎 「死の淵を見た男」門田隆将 (保護者の棚)

「カエルの楽園」百田直樹 (中1の棚) 「羊と鋼の森」宮下奈都 (中3の棚)